グループホームみつばち（認知症対応型共同生活介護事業所）

1. 評 価 結 果 概 要 表

作成日　20　年　3　月　7　日

［評価実施概要］

事業所番号	1870200126
法人名	有限会社みつばちホーム
事業所名	グループホームみつばち
所在地	福井県敦賀市長谷44号16番地 (電話)　0770-20-0038

評価機関名	福井県社会福祉協議会		
所在地	福井市光陽2丁目3－22		
訪問調査日	平成20年1月25日	評価確定日	平成20年3月7日

［情報提供票より］　(　20 年　1 月　16 日　事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	昭和 ・ ○平成　13　年　5　月　1　日			
ユニット数	1　ユニット	利用定員数計	9　人	
職員数	9　人	常勤　4 人、	非常勤　5 人、	常勤換算　5.8 人

(2)建物概要

建物構造	木造瓦葺　造り
	2　階建ての　1　～　2　階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	24,600　円		その他の経費(月額)	光熱水費10,000+実費 円
敷金	有　(　円)			○無
保証金の有無 (入居一時金含む)	有　(　円) ○無		有りの場合 償却の有無	有　/　無
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		1,050	円

(4)利用者の概要　(　1　月　16　日　現在)

利用者数	9　名	男性	1　名	女性	8　名
要介護1	3		要介護2	3	
要介護3	3		要介護4	0	
要介護5	0		要支援2	0	
年齢	平均　84.9　歳	最低	70　歳	最高	95　歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	木村病院･長村歯科医院

［外部評価で確認されたこの事業所の特徴］

敦賀市の南部、里山の風景が四季折々の姿を見せる自然に囲まれた集落の中に、民家を利用した当ホームがある。建物内部は、冬季の寒気防止のための間仕切り等が季節に合わせて工夫されている。各居室には入居者の思い思いの品が持ち込まれており、安らげる空間が提供され、入居者の穏やかな様子からも居心地の良さが汲み取れた。運営推進会議のメンバーに区長や市の関係者も入っており行政との関係も良好である。また、地域との連携では、区長や近隣から災害時の協力が得られるように取り決めがなされており、近所から花苗や野菜をもらうなど友好な関係ができている。医療面については、看護師資格保有者が2名配置され、医療機関からも往診に来てもらえるような仕組みもあり、家族の安心につながっている。また、終末期についても、家族や本人の意向に添った支援がなされており、可能な限りホームでの看取りも行なう方針である。

［重点項目への取組状況］

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	前回評価で指摘のあった介護記録の整備については改善が見られた。アセスメントを反映した取り組みについては、入居者の思いを汲み取り、能力を充分に発揮できるような働きかけが求められる。また、ホームの持つ認知症介護の情報を地域や家族に還元し、地域での介護の拠点になっていくことを期待したい。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	評価に当たっては、責任者が職員から聞き取りをしながら作成し、職員は日頃の介護について見直す機会と捉えている。指摘された課題点が今後の介護の中で活かされ、より質の高い介護の提供が期待される。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4、5、6)
	運営推進会議は、地区区長、民生委員、家族代表、保健師をメンバーに2か月毎に開催され、現状の報告がなされている。会議の中で認知症についての関心の高まりから、勉強会を行なう予定である。家族からはあまり意見が出ないこともあり今回の評価結果を議題に話し合いを持つ予定もあり、これを機会に運営推進会議の積極的な活用を期待したい。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法･運営への反映(関連項目:外部7、8)
	家族には、毎月担当の職員が手紙にホーム内や行事での写真を添えて近況報告をしている。家族の訪問時にも表情や態度から家族の意向を汲み取り、意見や苦情を引き出すように対処している。家族会が立ち上げられており、ホームへの要望や介護の不安など家族の日頃抱えている問題の解決に取り組む方針である。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	散歩時には挨拶や会話を交わすなど地域内での交流ができており、近所とも良い関係が保たれている。今後、グループホームの理解を深める取り組みとして、地域の行事の案内等の回覧版を回してもらい参加したり、入居者の自信や楽しみに繋がるような機会や場所を捉えて、絵画や作品の展示等を行い、ホームや認知症の理解を進めることが期待される。

2．評　価　結　果　（詳細）

外部評価№	自己評価№	項　　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取り組みを期待したい項目）	取り組みを期待したい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
		Ⅰ　理念に基づく運営　　**1　理念の共有**			
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	奉仕の心で入居者のできないところを手になって支えようという理念と、家庭的な環境の下での最大限のサービスという基本方針を確立し、日々介護に携っている。地域密着型サービスとして、地域住民との交流・連携の明文化はされていない。	○	これまでの理念に加え、地域密着型サービスの意義を盛り込んだ新たな理念を職員とともに作り上げていくことが求められる。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念については朝礼で確認し、管理者は日々の介護の場面の折に職員に話すようにしている。	○	地域との関係性の重視も盛り込んだ新たな理念の実現に向け、具体的なケアの実践に取り組まれることが望まれる。
		2　地域との支えあい			
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	近所とは、プランターの花苗等をもらったりして良好な関係にある。ホームの環境は地域に溶け込んでおり、季節の野菜等のおすそ分けや、散歩時は出会った人との挨拶や会話の機会が持たれている。町内会費を納めているが回覧板が回って来ないため、地域行事への参加の機会が少ない。	○	運営推進会議に地区区長も参加しており、随時相談にのってもらえるような関係ができている。今後は回覧板等で地域行事の情報を得て、参加できるよう協力を依頼することも求められる。
		3　理念を実践するための制度の理解と活用			
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価に当たっては、職員とともに行い、職員は日頃の介護のあり方を見直す機会として活用している。また、今回の外部評価の結果については運営推進会議で議題にし、指摘された問題点の解決に取り組む予定としている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2か月毎に開催され、地域、行政、家族を構成メンバーとしているが、家族からの意見があまり出ないこともあり、今回の評価結果を議題に話し合いを持つ予定である。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の担当者も、運営推進会議のメンバーに入っており、書類提出時も相談にのってもらえる良好な関係ができている。		
		4　理念を実践するための体制			
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	月に1度、担当職員が手紙に写真を添えて、ホームでの生活の様子を知らせている。	○	以前、報告に関する家族からの問い合わせがあったが、内容が記録として残されていないため、家族が知りたいと思う情報や要望を把握するためにも、些細なことでも記録として残される事が望まれる。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会を開いたり、意見箱も設置しているが家族からの意見が上げられることが少ないため、面会時などに家族から直接意見を聞いたり、顔色や様子を見て意向を汲み取るように努めている。	○	家族会の今後の活動の中で、ホーム側が席を外し、家族が話しやすい場づくりも予定しており、家族が主体的に意見を出し合い、家族会からの要望として運営に反映されることを期待したい。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	建設中の新たなグループホームへの職員異動は予定しておらず、職員の退社などの、入居者にとってのダメージになるようなこともほとんどない状況である。		

外部評価№	自己評価№	項　　目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
		5　人材の育成と支援			
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各種研修には職員を業務として参加させ、参加者は朝礼やミーティングで内容を報告をしている。参加後も、他の職員の介護場面でアドバイスするなど成果が活かされている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者や計画作成者は事業所の連絡会に参加している。また、他のグループホームのそば打ち体験に参加するなど、入居者や職員同士の交流が持たれている。		
		Ⅱ　安心と信頼に向けた関係づくりと支援　　**1　相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応**			
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居者がホームに慣れるまで職員が意識して入居者に付き添うように対応している。		
		2　新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	男性職員が家事について入居者から教わることはあるが、「入居者の手になろう」という理念から、職員がお世話する側の立場に立つことが多いことが職員からの聞き取りでも確認された。	○	アセスメントでは生活歴や特技等を詳しく調査し、記録も整備されているので、今後は、アセスメントを活かした取り組みが求められる。
		Ⅲ　その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント　　**1　一人ひとりの把握**			
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の活動への意欲や意向は、表情や行動から汲み取り、体調や希望にあわせた対応がなされている。男性の入居者はホーム側の管理の下であはるが、嗜好品(タバコ、酒)も楽しまれていた。		
		2　本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	入居時にセンター方式で生活歴などの情報を家族も含めて収集し、介護計画のカンファレンスには職員の参加しやすい時間帯に設けられている。家族の口に出せない思いも、表情や態度から汲み取るようにしている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は3か月毎に見直し、特に変化があれば随時カンファレンスを行い、見直している。		
		3　多機能性を活かした柔軟な支援			
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	入居者の希望に応じて、外出支援がなされている。また、ベッドが空いていればショートステイの受け入れも可能である。		

外部評価№	自己評価№	項　　目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
		4　本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医への受診は、利用者の希望で家族か職員が代行して同行している。家族が付き添う時は、ホームでの情報を記入し、注意事項も書き添えて渡している。職員が付き添った時は受診後家族への報告がなされている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	契約時に家族と話し合っており、状態の変化に応じて家族や本人とも何度も話し合い対応している。終末期の看取りも家族や本人の希望で対応した実績がある。		
		Ⅳ　その人らしい暮らしを続けるための日々の支援　　**1　その人らしい暮らしの支援　(1) 一人ひとりの尊重**			
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	食後の口腔ケア時の声かけ等は適切であり、介護記録なども入居者の目に触れないように管理されている。食べこぼし用のエプロンを使っていない点も入居者のプライドへの配慮がみられる。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	朝の起床や食事時間等も入居者のペースに合わせて対応している。		
		(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	献立には、入居者の希望を取り入れている。食後の後片付け等も能力に応じてしてもらっている。	○	調理は専門の職員がしており、入居者が関われる場面が少ない。味見や切り方など食事の準備の場面に引き込む取り組みも望まれる。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週2回曜日を決めて入浴している。開設時は入浴時間を夕方に設定していたが、入居者が午前中に入浴を済ませるようになったので、現在は入浴時間を変更している。		
		(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	畑仕事や絵心のある人は似顔絵に勤しむなど支援がなされている。入居者が陶芸村で作った陶芸作品があったり、自分達で作った若狭塗り箸を食卓で使ったりとホームでの生活を彩る工夫が見られた。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	近所への散歩や嗜好品の買い物等希望に添った外出支援がなされている。		
		(4) 安心と安全を支える支援			
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中玄関や居室の施錠はなされていない。ホーム近くに鉄道の線路があることから、玄関にセンサーランプの設置がある。	○	センサーランプが入居者の監視につながらないよう、これからも入居者の表情や状態に目を向け、安全面に配慮して、その人の自由な暮らしを支える取り組みを期待したい。

外部評価№	自己評価№	項　　目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年1回消防署に来てもらって避難訓練をしており、職員のとる行動について周知徹底されている。また、避難誘導についても区長と連携がとれるようになっており、両隣の家にも応援してもらえるよう話し合われている。	○	今後、職員の手薄な夜間時を想定した避難訓練の実施等、なおいっそう入居者や家族の安心、安全に繋げる取り組みも期待される。
		(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面への支援			
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立はカロリー計算されたものを参考にし、必要な水分、食事量等も管理され、個人の体調や状態に合わせ、ジュースや他の物で補うよう柔軟に対応している。		
		2　その人らしい暮らしを支える生活環境づくり　(1) 居心地のよい環境づくり			
29	81	○居心地のよい共有空間づくり 共用の空間 (玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等) は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間は寒気防止の間仕切り等の工夫がされており、採光や食事中のラジオの音量等も適切であった。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、テレビや好みのもの等入居者の思い思いの品が持ち込まれており、居心地の良さが感じられる部屋になってる。		

※ ■は、重点項目。

グループホームみつばち

自　己　評　価　票

項目番号	項　　目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
	Ⅰ　理念に基づく運営　　**1　理念の共有**			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	会社の理念:　奉仕の心でつなぐ至福の和 GHの理念:　手になろう	○	朝礼時に唱和する。 理念通りに利用者に伝わっているかどうか計り知れないが、常に表情を見ながら定期的に職員と確認しあう。
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	朝礼時に唱和し定期的に確認しあう。		
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にした理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	運営推進会議・家族会などで話し合っている。		
	2　地域との支えあい			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	ホームの外や、ホームの中からでもご近所の人に会えば日常的な会話をしている。		
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	行事に参加することはない。 (地域には事業所として認識されており区費も協力費として支払っている)	○	回覧板等が回って来ない為前もって行事を把握できない。 当日目に付いた事に関しては参加させてもらっている。
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	話し合いをしている。	○	運営推進会議の中で当事業所の存在はわかってもらっているのを確認出来ているのでボランティアや社会参加が出来ることがあればと話している。
	3　理念を実践するための制度の理解と活用			
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	ホームが山に囲まれた自然の中に有るのでそれを生かして天気の良い日は外に出て自然に触れる機会を持つようにしている。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	報告は行っているがサービス向上に対しての意見が出ない(グループホームへの関心並びに理解に対して当方の説明不足か。会議の内容はホームを理解してもらうようホームの行事、利用者の状況など話しサービス向上に向けた話し合いに至っていない)		

項目番号	項　　目	取り組みの事実 (実施している内容･実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	提出書類等があるときなどに出向く。 市町村担当者とはいろいろな相談も出来良好な関係である。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	権利擁護制度は把握している。 将来必要な人がいれば活用できるようにしたいと思う。	○	職員全員が知識を身につけるよう取り組みたい
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	研修に参加して学んだことに関して職員で話し合いホーム内で虐待が発生しないよう努めている。		
	4　理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解･納得を図っている	十分な説明を行っている。		
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	随時行っている。		
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	月に一度手紙で報告し家族会で再度伝えている。		
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置している。 定期的に家族会を行い意見や苦情に対して処理している。		
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	朝礼時若しくは定期的にミーティングを行っている。		
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	状況に応じて対応している。		
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	出来るだけダメージを最小限にするようしている。		

項目番号	項　　目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
	5　人材の育成と支援			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各研修に参加している。		
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	そば作り体験など同業者の行事に参加させてももらっている。		
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	勤務にはほとんど希望を取り入れている。		
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	向上心を持って働けるよう事業所内研修を行っている。		
	Ⅱ　安心と信頼に向けた関係づくりと支援　　**1　相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応**			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	コンタクトが取れる人には話をし、聞き取れないような人には不安がなくなるまで傍にいるよう努めている。		
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	家族が何に不安を持ち何に困っているかを感じ取れるよう話し合いをする。		
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談の内容により対応できるよう努力している。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	ホームの雰囲気に慣れるまで職員が付き添い係わる中で安心感を得られるようにする。		
	2　新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	日々一緒に過ごしているので日常的に相互が学んだり支えあっていると思う。		

項目番号	項　　目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	利用者の日頃の様子を月に一度手紙を書いて伝えている。面会時には現在の状況を伝えている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	入居時のアセスメントはセンター方式を使用し、家族の方にも同じものを書いてもらい、これまでの生活歴を把握している。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居時のアセスメントはセンター方式を使用し、家族の方にも同じものを書いてもらい、これまでの生活歴を把握している。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	孤立する利用者がでたり、トラブルがないように席の配置を考えている。孤立している利用者には職員が中に入り利用者の輪に入れるように誘導している。		
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	特別行っていない。	○	利用者側から要望があれば対応したい。
	Ⅲ　その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント　　**1　一人ひとりの把握**			
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	定期的にカンファレンスを行い、情報の共有を行っている。また、担当者が密に関係を持つようにしている。（作業するときには担当者がつくなど）		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時のアセスメントはセンター方式を使用し、家族の方にも同じものを書いてもらい、これまでの生活歴を把握している。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	入居時のアセスメントはセンター方式を使用し、家族の方にも同じものを書いてもらい、これまでの生活歴を把握している。		
	2　本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	入居時のアセスメントはセンター方式を使用し、家族の方にも同じものを書いてもらい、これまでの生活歴を把握している。 カンファレンスは、できるだけ多くのスタッフが参加できるように日にちを選定している。		

項目番号	項　　目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	基本の見直しは6か月としているが、状態の変化があればその都度カンファレンスを行い検討している。		
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	専用のケアプラン実施記録を作成し、見やすいようにしている。		
	3　多機能性を活かした柔軟な支援			
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	日課の基本組み立てはしているが、職員配置や利用者の状況を見て外出など行っている。		
	4　本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	消防訓練は消防署の指示のもとおこなわれている。敬老会等の大きな行事には地域住民の方にも声かけをして参加してもらっている。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	必要性があれば対応するが、現在は行っていない。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	必要性があれば対応するが、現在は行っていない。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力病院とは、往診してもらうなどの支援を受けている。他のかかりつけ医の定期受診については、家族にお願いするかもしくはホームの職員が代行している。		
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	認知症については精神科の専門医を受診し、定期的に進行状態の確認やケアについての助言をもらっている。		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	管理者が看護師のため、日常はもちろんカンファレンスの機会でも十分に話し合いがなされている。		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	現在の取決めでは3週間程度入院が続くと退去についての協議がなされるため、家族の意向を聞き3週間以内に退院できるように家族や医師と相談している。		

項目番号	項　　目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	状態が悪化してきた際には、逐一家族へ伝達し、その場その場で意向を確認している。その意向に合わせて、かかりつけ医看護師の指導のもとケアを行っている。		
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	状態が悪化してきた際には、逐一家族へ伝達し、その場その場で意向を確認している。その意向に合わせて、かかりつけ医看護師の指導のもとケアを行っている。		
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	新しくホームに入居されてきた際は、担当者を決め周りの環境に馴染むまで付き添っている。		
	Ⅳ　その人らしい暮らしを続けるための日々の支援　　**1　その人らしい暮らしの支援　(1) 一人ひとりの尊重**			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	見当識障害があってもその場面場面で自信を無くさないような声かけを行い、申し送りなどで状態を共有し統一した声かけができるように配慮している。記録は個人ファイルを作り管理している。		
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援している	担当者が個別にコミュニケーションをとり、対応している。聴取した内容については申し送りやカンファレンスで共有している。		
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	無理に取り組んでもらうことを決めるのではなく、利用者の状態を見て作業に誘ったり、レクに参加してもらったり、休んでもらうなどそれぞれに行っている。		
	(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	入浴後の着替えについては担当者が一緒に部屋へ行き、一緒に服を選んでいる。理美容についてはホームで切るか、お店に行くか選んでもらっているが、お店は同じ所へ行っている。		
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事については、好みを聞いてもあまり返答がない。嫌いなものは他の物を用意するようにしている。自分の食器は流しまで運んでもらうように声かけしている。洗いはその都度利用者にお願いしているが、最近はする人がだいたい決まってきている。		
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	現在、日常的に晩酌される方は一人しかいないが、ホームで管理はしているものの、毎日晩酌している。たばこはホーム内は禁煙としているため屋外の所定の場所で吸ってもらっている。		

項目番号	項　　目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	おむつ対応の方でも、日中はトイレへ誘導している。自分でトイレへ行く方でも失禁の恐れのある方にはそれとなく声かけして汚染の確認をさせてもらっている。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	現在、週2回と曜日を決めて入浴している。	○	職員の配置に余裕ができれば回数や曜日など幅を持っていきたい。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	日中はできるだけ活動的に過ごしてもらえるように働きかけ、生活リズムが崩れないように配慮している。		
	(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	センター方式を使用し、生活歴を把握するとともに全スタッフと共有できるようにしている。天候のよい時にはできるだけ外に出るように考えている。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	認知症の状態を勘案して、能力のある方には財布と現金を持ってもらっている。買い物などに行く際には本人が支払っている。しかし、状態的に金銭を管理できる利用者は一人しかいない。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気の良い日に散歩を促したり、買物や、イベントに極力出かけている。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	市外から入居している方がいるので、行ける時には家の様子を見に行くなどの支援をしている。		
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話については認知症の状態を勘案して支援している。希望者には家族あての年賀状や暑中見舞いを作成するなどの支援を行っている。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	気軽に訪問できるような雰囲気作りを心掛けている。		

項目番号	項　　目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
	(4) 安心と安全を支える支援			
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	管理者、ケアマネが主導して取り組んでいる。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中、玄関は常に解放されている。居室にはカギがない。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	夜間は物音がしない限り居室にはいらないようにしている。玄関が段差になっているため、危険がないように見守っている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	薬は事務所で管理している。居室などには危険なものはない。洗剤などは洗面所で一括管理している。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	防火管理者を配置し、避難訓練、伝達研修等随時行っている。		
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	管理者の指導を受けているが、定期的に訓練をおこなってはいない。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	定期的に避難訓練を行い、また、運営推進会議で近隣住民の協力要請をお願いしている。		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている	状態の変化などは逐一報告している。利用者の問題点についてはカンファレンスや随時話し合いを持ち話し合っている。		
	(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面への支援			
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎朝、バイタルチェックを行い、異常のある利用者は再検して状態を観察している。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	受診記録を継続的に作り、内服の変更など記録している。薬の説明書は綴ってある。特に、精神薬については副作用に注意している。		

項目番号	項　　目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	水分摂取量のチェックを行い、観察している。普段の生活では特に体を動かす機会がないため、昼食の前に全員で体操するなどしている。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	介助が必要な利用者は毎食後口腔ケアを行っている。夕食後は義歯を使用している利用者に声かけし毎日洗浄剤で洗っている。		
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の摂取量を観察しその利用者に応じた摂取量を決めている。ご飯の量は秤で計っている。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	外出後のうがい・手洗いの促し、食事前の台拭き、手洗いを励行している。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	漂白剤による消毒を行うとともに、布巾類は日光消毒している。		
	2　その人らしい暮らしを支える生活環境づくり　(1) 居心地のよい環境づくり			
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	庭には花壇を作り、季節に応じた花を植えてきれいに整えている。玄関前にもプランターを置き花を植えて整えている。階段には手すりをつけるとともに、車いす用のスロープをある。		
81	○居心地のよい共有空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	住宅改修型の特性を生かし、家にいるような雰囲気が出ていると感じている。壁などには、季節感を感じてもらえるようにその季節の飾りを一緒に作成し飾っている。		
82	○共有空間における一人ひとりの居場所づくり 共有空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブルは2つ置いてあるが、一人になれるような場所はない。一人になりたいときには居室で休むように促している。テーブルの配置は自由であるが利用者の中で決まっているらしく決まった場所に座っていることが多い。		
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	荷物の持ち込みは自由となっており、利用者それぞれの物がおかれているが、馴染みの物が少ない利用者も多い。	○	家族などの協力を得て環境作りを行っていきたい。
84	○換気・空調の配慮 気のなるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	窓を開ける、換気扇をつけるなどして匂いへの対応を行う。温度調整は古い建物であるためどうしても不利なところがあるが、冷暖房器具を使用し行っている。		

項目番号	項　　目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
	(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	階段にはリフトを設置し、移動する通路には手すりを設置している。段差の解消のために改修している。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	利用者に応じた、レクや活動を促している。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	敷地内に小さな畑を作り、野菜を育てている。収穫したものが食卓に並ぶなど楽しんでいる。花壇やプランターに季節に応じた花を植え、世話をしている。		

項目番号	項　　目	取り組みの成果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
	V　サービスの成果に関する項目	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○　①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○　①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○　①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○　①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○　①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○　①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○　①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない

95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
98	職員は、活き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

（この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。）